



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年11月6日
上場取引所 東

上場会社名 参天製薬株式会社
 コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ グループマネージャー (氏名) 日比 貴史 TEL 06-4802-9434
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日 配当支払開始予定日 平成25年11月29日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	69,263	22.1	14,457	10.5	14,861	10.4	8,994	0.2
25年3月期第2四半期	56,715	△0.1	13,080	△10.2	13,466	△10.5	8,978	△9.4

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 11,689百万円 (52.9%) 25年3月期第2四半期 7,646百万円 (△23.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	108.99	108.68
25年3月期第2四半期	103.98	103.85

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	211,690	171,526	80.8	2,073.17
25年3月期	199,640	165,132	82.6	1,998.44

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 171,111百万円 25年3月期 164,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
26年3月期	—	50.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	141,500	18.8	26,300	6.6	26,800	4.7	18,200	10.2	215.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

詳細は、添付資料6ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期2Q	82,537,103株	25年3月期	82,469,103株
26年3月期2Q	1,408株	25年3月期	900株
26年3月期2Q	82,518,839株	25年3月期2Q	86,347,079株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12
4. 連結参考資料	13
(1) 主要製品売上高	13
(2) 医薬品開発状況	14
(3) 設備投資、減価償却費および研究開発費の実績ならびに見込額	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当第2四半期連結累計期間の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、網膜疾患治療剤および角結膜疾患治療剤、緑内障治療剤等の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。海外医療用眼科薬市場は、欧州・アジアでは堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、前年同期と比べほぼ横ばいで推移しました。

このような状況下、当第2四半期の業績は、以下のとおり増収増益となりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期増減率
売上高	56,715	69,263	22.1%
営業利益	13,080	14,457	10.5%
経常利益	13,466	14,861	10.4%
四半期純利益	8,978	8,994	0.2%

[売上高]

前年同期から22.1%増加し、692億6千3百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業における、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」、「コソプト配合点眼液」、角結膜疾患治療剤「ジクアス点眼液」、また平成24年11月に発売した眼科用VEGF阻害剤「アイリーア硝子体内注射液」等の成長に加えて、海外における普及促進活動により、当社製品の市場浸透が進んだことによるものです。

[営業利益]

前年同期から10.5%増加し、144億5千7百万円となりました。

売上原価は271億6千万円となり、売上原価率は39.2%となりました。販売費及び一般管理費については276億4千5百万円となり、このうち研究開発費は80億7千8百万円となりました。

[経常利益]

前年同期から10.4%増加し、148億6千1百万円となりました。

[四半期純利益]

前年同期から0.2%増加し、89億9千4百万円となりました。

② 当第2四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他の事業セグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は98.0%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期から22.0%増加し、678億7千7百万円となりました。営業利益は、146億4千3百万円となりました。一方、その他の事業の売上高は、前年同期から28.9%増加し、13億8千6百万円となりました。営業損失は、1億8千5百万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	56,806	21.3%	11,070	25.5%	67,877	22.0%
医療用医薬品	53,424	22.4%	11,051	25.3%	64,476	22.9%
うち眼科薬	47,915	25.9%	10,723	24.3%	58,638	25.6%
うち抗リウマチ薬	5,206	3.9%	49	54.5%	5,256	4.2%
うちその他医薬品	302	△48.0%	278	77.3%	581	△21.3%
一般用医薬品	3,381	6.5%	19	291.6%	3,400	6.9%
その他の事業	1,364	32.6%	21	△53.6%	1,386	28.9%
医療機器	1,240	21.1%	21	△53.6%	1,261	17.9%
その他	124	—	—	—	124	—
合計	58,171	21.6%	11,092	25.1%	69,263	22.1%

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開し、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ25.9%増加し、479億1千5百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は前年同期と比べ8.1%増加し、41億3千3百万円となりました。また、「コンプト配合点眼液」の売上高は、前年同期と比べ35.5%増加し、57億6千1百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ0.1%増加し、92億7千1百万円となりました。また、「ジクアス点眼液」は、順調に市場浸透した結果、売上高は、前年同期と比べ57.2%増加し、35億2千9百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などの影響により、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ4.6%減少し、49億5千1百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、スギ花粉の飛散が早期に終息したこともあり、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ31.9%減少し、8億1百万円となりました。

また、網膜疾患治療剤領域では、滲出型加齢黄斑変性の治療ニーズに応える新製品「アイリーア硝子体内注射液」を平成24年11月より発売し、売上高は81億6千4百万円となりました。

〔海外〕

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ24.3%増加し、107億2千3百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツを中心に緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、主力品の普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠」が、国内において関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ4.2%増加し、52億5千6百万円となりました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。

その他医薬品の売上高は、前年同期と比べ21.3%減少し、5億8千1百万円となりました。

(一般用医薬品)

一般用医薬品の売上高は、新製品「サンテボーティエ」、「サンテPC」を発売し好調に推移しことから全体の売上也堅調に推移しました。その結果、対前同四半期と比べ6.9%増加し、34億円となりました。

[その他の事業]

(医療機器)

医療機器の売上高は、高屈折率の亚克力ル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」シリーズの普及促進活動に注力した結果、国内の売上高は順調に伸長し、前年同期と比べ17.9%増加し、12億6千1百万円となりました。

(その他)

その他の売上高は、(株)クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものと、サプリメント製品の販売によるもので1億2千4百万円となりました。

③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF_{2α}誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売中です。海外では欧州とアジアで自社販売しており、中国では製造販売承認を申請中です。また、平成21年4月のライセンス契約により、メルク社（米国）は、米国、西欧、ラテンアメリカ諸国などでタフルプロストを販売しています。この結果、タフルプロストの販売国は、全世界で60カ国以上となっています。また、防腐剤を含まない1回使い切りタイプのDE-118（一般名：タフルプロスト）は、平成25年10月に日本で「タプロスミニ点眼液」として発売しました。

緑内障・高眼圧症を適応症とする配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、平成25年9月に日本において製造販売承認を取得しました。また、欧州において製造販売承認を申請中です。また、緑内障・高眼圧症を適応症とするプロスタグランジンEP2受容体作動薬DE-117（一般名：未定）は、第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では平成25年10月に発売しました。中国では製造販売承認を申請中です。遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、日本での第Ⅱ相試験の結果を踏まえ、次の開発計画を検討中です。

網膜・ぶどう膜疾患領域において、DE-102（一般名：ベタメタゾン）は、糖尿病黄斑浮腫と網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫を対象に第Ⅱ相／第Ⅲ相試験を日本で実施中です。また、ぶどう膜炎を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、米国、日本、欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。

アレルギー性結膜炎を適応症としたDE-114（一般名：エピナスチン塩酸塩）は、平成25年9月に日本において製造販売承認を取得しました。

関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、日本での第Ⅱ相試験の結果を踏まえ、今後の事業価値の最大化を図るべく次の開発計画を検討中です。

サンテン・エス・エー・エス（連結子会社）の臨床開発品について、Cyclokate（開発品名：シクロカット、一般名：シクロスポリン）は、重症ドライアイを適応症として欧州で製造販売承認の申請準備中です。春季カタルを適応症とするVekacia（開発品名：ベカシア、一般名：シクロスポリン）は、欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。

（注）サンテン・エス・エー・エスは、平成25年4月、ノバガリ・ファーマ・エス・エー・エスから社名変更しました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末の資産は、前連結会計年度末と比べ120億4千9百万円増加し、2,116億9千万円となりました。現金及び預金、受取手形及び売掛金、有価証券および投資有価証券の増加などが要因です。

負債は、前連結会計年度末と比べ56億5千6百万円増加し、401億6千4百万円となりました。未払金の減少などがありましたが、未払法人税等の増加、退職給付に関する会計基準等の適用による退職給付に係る負債の増加などが要因です。なお、役員退職慰労金制度を6月をもって廃止したことに伴い、役員退職慰労引当金を固定負債その他に振替えています。

純資産は、前連結会計年度末と比べ63億9千3百万円増加し、1,715億2千6百万円となりました。退職給付に関する会計基準等の適用による退職給付に係る調整累計額の減少などがありましたが、利益剰余金、為替換算調整勘定の増加などが要因です。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ1.8ポイント減少し、80.8%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、112億9千3百万円の収入となりました。税金等調整前四半期純利益は139億8千3百万円であり、売上債権の増加が33億1千7百万円、法人税等の支払いが31億3千1百万円あったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、59億5千4百万円の支出となりました。投資有価証券の取得による支出が39億1千1百万円、固定資産の取得による支出が26億3千9百万円あったことなどによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、39億1千8百万円の支出となりました。配当金の支払いが41億2千1百万円あったことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ18億9千7百万円増加し、616億9千4百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年8月6日に公表した平成26年3月期の業績予想と比較し、売上高は国内医療用医薬品事業の売上成長により増加すると予想しています。営業利益、経常利益および当期純利益の見直しに変更はありません。

なお、平成25年8月6日に公表しました通期の連結業績予想との差異は以下のとおりです。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
前回発表予想 (A)	134,500	26,300	26,800	18,200	215	72
今回修正予想 (B)	141,500	26,300	26,800	18,200	215	72
増減額 (B - A)	7,000	0	0	0	0	0
増減率	5.2%	0%	0%	0%	—	
前期実績	119,066	24,681	25,602	16,520	195	81

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計方針の変更
(減価償却方法の変更)

従来、当社および国内子会社は、有形固定資産の減価償却方法について、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しています。

当社グループでは、2011年度から2013年度の中期経営計画において、生産・品質管理の徹底、ならびにグローバルレベルでの生産ラインの効率化の推進と再編により、中長期的な視点で高い競争力を有する製品の供給体制の構築を目標に掲げています。その実現のため、大阪工場の生産機能、生産技術、および原材料調達等の機能の滋賀プロダクトサプライセンターへの移管を中心とした設備投資や海外拠点における生産体制の見直しを進めてきました。2013年度から滋賀プロダクトサプライセンターが当社グループの生産の中核拠点として稼働を開始するなど、新たなグローバル生産体制と今後の安定的な製品供給体制が整備されました。

このグローバル生産体制最適化を契機に、有形固定資産の使用実態を見直した結果、安定した設備の稼働が見込まれること、また、グループとしてグローバルに効率的かつ安定的な資源配分を行えるようになったことから、有形固定資産の減価償却方法に関する会計方針をグループ内で定額法に統一することが、有形固定資産の使用実態をより適切に反映するものと判断しました。

この結果、従来の方法によった場合と比較して、当第2四半期連結累計期間の減価償却費は336百万円減少し、営業利益は232百万円増加し、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ237百万円増加しています。

なお、セグメント情報に与える影響は、「3. 四半期連結財務諸表（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載しています。

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」といいます。）および「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）が平成25年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用できることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間よりこれらの会計基準等を適用し、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る負債に計上しました。また、当社は、退職給付債務および勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上したことに伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しています。また、退職給付債務および勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を当第2四半期連結累計期間の期首の利益剰余金に加減しています。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首のその他の包括利益累計額が1,713百万円減少し、利益剰余金が227百万円増加しています。また、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微です。

なお、セグメント情報に与える影響は軽微であるため、記載を省略しています。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	50,884	52,786
受取手形及び売掛金	43,840	47,497
有価証券	11,007	12,310
商品及び製品	16,703	15,751
仕掛品	624	531
原材料及び貯蔵品	3,620	3,620
繰延税金資産	1,880	2,095
その他	4,022	4,749
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	132,582	139,340
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	42,807	44,469
減価償却累計額及び減損損失累計額	△29,379	△30,123
建物及び構築物(純額)	13,427	14,346
機械装置及び運搬具	11,920	13,130
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,336	△10,729
機械装置及び運搬具(純額)	1,584	2,400
土地	8,240	8,251
リース資産	251	267
減価償却累計額及び減損損失累計額	△93	△124
リース資産(純額)	158	142
建設仮勘定	2,454	967
その他	11,833	12,513
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,278	△10,434
その他(純額)	1,554	2,078
有形固定資産合計	27,420	28,186
無形固定資産		
のれん	5,936	6,285
仕掛研究開発	6,767	7,583
ソフトウェア	1,150	1,193
その他	269	386
無形固定資産合計	14,123	15,449
投資その他の資産		
投資有価証券	18,173	20,087
繰延税金資産	4,460	5,614
その他	2,879	3,012
投資その他の資産合計	25,513	28,713
固定資産合計	67,057	72,349
資産合計	199,640	211,690

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,266	10,197
未払金	9,868	8,318
未払法人税等	3,038	5,578
賞与引当金	3,085	2,908
返品調整引当金	104	111
その他	1,647	2,104
流動負債合計	27,011	29,218
固定負債		
リース債務	87	71
繰延税金負債	2,269	2,540
退職給付引当金	3,664	—
役員退職慰労引当金	248	—
退職給付に係る負債	—	6,232
事業構造改善引当金	—	739
資産除去債務	160	220
その他	1,066	1,141
固定負債合計	7,496	10,945
負債合計	34,507	40,164
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,080	7,193
資本剰余金	7,775	7,887
利益剰余金	151,001	156,100
自己株式	△2	△4
株主資本合計	165,855	171,177
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,920	1,846
為替換算調整勘定	△2,967	△297
退職給付に係る調整累計額	—	△1,614
その他の包括利益累計額合計	△1,047	△66
新株予約権	324	415
純資産合計	165,132	171,526
負債純資産合計	199,640	211,690

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	56,715	69,263
売上原価	18,821	27,160
売上総利益	37,893	42,102
販売費及び一般管理費	24,812	27,645
営業利益	13,080	14,457
営業外収益		
受取利息	34	32
受取配当金	229	247
生命保険配当金	157	147
その他	75	131
営業外収益合計	496	560
営業外費用		
支払利息	2	3
為替差損	35	73
自己株式取得費用	25	—
減価償却費	—	71
その他	47	8
営業外費用合計	110	156
経常利益	13,466	14,861
特別利益		
固定資産処分益	16	—
特別利益合計	16	—
特別損失		
固定資産処分損	5	9
施設利用権評価損	—	1
事業構造改善費用	—	867
特別損失合計	5	878
税金等調整前四半期純利益	13,477	13,983
法人税、住民税及び事業税	4,382	5,467
法人税等調整額	116	△478
法人税等合計	4,498	4,988
少数株主損益調整前四半期純利益	8,978	8,994
四半期純利益	8,978	8,994
少数株主損益調整前四半期純利益	8,978	8,994
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	41	△73
為替換算調整勘定	△1,372	2,669
退職給付に係る調整額	—	99
その他の包括利益合計	△1,331	2,695
四半期包括利益	7,646	11,689
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,646	11,689
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	13,477	13,983
減価償却費	1,244	1,336
のれん償却額	319	383
事業構造改善費用	—	867
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	188	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	409
受取利息及び受取配当金	△263	△280
支払利息	2	3
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,515	△3,317
たな卸資産の増減額 (△は増加)	509	1,480
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,481	873
その他	△2,220	△1,602
小計	9,260	14,136
利息及び配当金の受取額	270	289
利息の支払額	△0	△1
法人税等の支払額	△5,168	△3,131
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,362	11,293
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△449	△57
定期預金の払戻による収入	174	57
有価証券の取得による支出	△304	△203
有価証券の売却及び償還による収入	1,537	800
固定資産の取得による支出	△1,380	△2,639
固定資産の売却による収入	30	1
投資有価証券の取得による支出	△2,219	△3,911
その他	0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,612	△5,954
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△13,763	△2
配当金の支払額	△4,354	△4,121
その他	36	205
財務活動によるキャッシュ・フロー	△18,082	△3,918
現金及び現金同等物に係る換算差額	△484	476
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△16,817	1,897
現金及び現金同等物の期首残高	75,035	59,797
現金及び現金同等物の四半期末残高	58,218	61,694

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	55,639	1,075	56,715	—	56,715
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	58	58	△58	—
計	55,639	1,134	56,774	△58	56,715
セグメント利益又は損失(△)	13,378	△297	13,080	—	13,080

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	67,877	1,386	69,263	—	69,263
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	63	63	△63	—
計	67,877	1,449	69,326	△63	69,263
セグメント利益又は損失(△)	14,643	△185	14,457	—	14,457

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

会計方針の変更に記載のとおり、従来、当社および国内子会社は、有形固定資産の減価償却方法について、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しています。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益が、医薬品事業で232百万円増加し、その他の事業への影響額は軽微です。

4. 連結参考資料

(1) 主要製品売上高

(単位:百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成25年3月期		平成26年3月期	
		第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
クラビット点眼液 レボフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	5,769 (△14.8)	10,857 (△12.2)	6,149 (6.6)	11,928 (9.9)
タリビッド点眼液 オフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	965 (△6.9)	1,830 (△5.3)	973 (0.8)	1,950 (6.5)
タブロス点眼液 タフルプロスト点眼液	緑内障治療剤	3,933 (8.0)	7,872 (7.1)	4,355 (10.7)	8,901 (13.1)
コゾプト配合点眼液 ドルゾラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	4,252 (50.1)	9,006 (43.6)	5,761 (35.5)	11,800 (31.0)
チモプトール点眼液 チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	730 (△19.4)	1,366 (△19.7)	629 (△13.8)	1,159 (△15.2)
チモプトールXE点眼液 チモロールマレイン酸塩持続性点眼液	緑内障治療剤	1,099 (△13.4)	2,085 (△13.3)	1,009 (△8.2)	1,923 (△7.8)
デタントール点眼液 ブナゾシン塩酸塩点眼液	緑内障治療剤	948 (△5.7)	1,734 (△11.9)	777 (△18.1)	1,304 (△24.8)
レスキュラ点眼液 イソプロピル ウノプロストン点眼液	緑内障治療剤	1,164 (△9.3)	2,243 (△9.3)	1,096 (△5.8)	2,187 (△2.5)
リボスチン点眼液 レボカバスチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー 点眼剤	1,176 (△1.7)	4,036 (20.6)	801 (△31.9)	2,318 (△42.6)
ヒアレイン点眼液 ヒアルロン酸ナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	10,884 (△3.9)	21,159 (△4.8)	10,748 (△1.2)	20,628 (△2.5)
ジクアス点眼液 ジクアホルナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	2,244 (100.1)	5,563 (95.5)	3,529 (57.2)	7,788 (40.0)
フルメロン点眼液 フルオロメロン点眼液	抗炎症点眼剤	2,002 (0.6)	4,447 (9.2)	1,807 (△9.8)	3,809 (△14.4)
カリーユニ点眼液 ピレノキシシン点眼液	老人性 白内障治療剤	1,947 (1.4)	3,765 (2.1)	1,957 (0.6)	4,074 (8.2)
オペガンハイ眼粘弾剤 ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤	眼科手術補助剤	1,439 (△6.3)	2,842 (△5.8)	1,433 (△0.4)	3,001 (5.6)
アイリーア硝子体内注射液 アフリバルセプト(遺伝子組換え)硝子体内注射液	眼科用VEGF阻害剤	- -	3,183 -	8,164 -	16,303 (412.1)
リマチル錠 ブシラミン錠	抗リウマチ剤	1,697 (△13.0)	3,253 (△11.4)	1,633 (△3.8)	3,057 (△6.0)
アザルフィジンEN錠 サラゾスルファピリジン腸溶錠	抗リウマチ剤	1,934 (△6.5)	3,767 (△6.5)	1,949 (0.8)	3,568 (△5.3)
メトレート錠 メトレキサート錠	抗リウマチ剤	1,006 (23.3)	2,040 (19.6)	1,194 (18.8)	2,590 (27.0)
一般用医薬品		3,180 (30.0)	6,474 (40.8)	3,400 (6.9)	6,727 (3.9)

下段: 対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	アジア	2010年3月					
				中国	2011年1月					
<p>プロスタグランジンF₂α誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、日本で発売。欧州では、ドイツ、デンマーク等で発売。2009年4月、米国等での開発権をメルク社(米国)に許諾。アジアでは2010年3月以降、香港、韓国、インドネシア、シンガポールにて発売。中国で承認申請中。</p>										
ジクアホルナトリウム	DE-089	ドライアイ	インスパイア	韓国	2013年10月					
				中国	2012年1月					
<p>角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月より日本にて発売。2013年10月、韓国にて発売。中国では承認申請中。</p>										
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD	日本						
<p>視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。</p>										
ベタメタゾン	DE-102	糖尿病およびBRVO*に伴う黄斑浮腫	オークウッドと共同開発	日本	(フェーズ2/3)					
<p>ドラッグデリバリーシステム概念を取り入れたマイクロスフェア製剤で、局所投与により安定した薬効持続性を期待。商業用スケールでの製造技術開発でオークウッド社(米国)と提携。 ※BRVO:網膜静脈分枝閉塞症</p>										
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	自社	米国						
				日本						
<p>既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞の伸展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と高い安全性を期待。</p>										
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国						
				日本						
				欧州						
<p>免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。米国・日本・欧州でフェーズ3試験を実施中。</p>										
タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発 共同開発	日本	2013年9月					
				欧州	2013年6月					
<p>プロスタグランジンF₂α誘導体およびβ遮断剤の配合剤。欧州にて製造販売承認を申請中。2013年9月、日本にて製造販売承認を取得。</p>										
エピナスチン塩酸塩	DE-114	アレルギー性結膜炎	日本ベーリンガーインゲルハイム	日本	2013年9月					
<p>H₁拮抗作用と膜安定化作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。2013年9月、日本で製造販売承認を取得。</p>										

■医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-117	緑内障・高眼圧症	宇部興産と共同開発	米国	(フェーズ1/2a)					

新規メカニズムのプロスタグランジンEP2受容体作動薬。米国でフェーズ1/2a試験を実施中。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-118	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本						2013年10月

プロスタグランジンF_{2α}誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。防腐剤を含まない、1回使い切りタイプの製剤。2013年10月、日本で発売。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-098 (抗APO-1抗体)	関節リウマチ	ヤンセン バイオテック	日本						

関節リウマチ患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。フェーズ2試験の結果を踏まえ、次の開発計画を検討中。

■サンテン・エス・エー・エス開発品の状況(臨床段階)

一般名	開発品名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Cyclokat (シクロカット)	重症ドライアイ	自社	欧州						
				米国						
免疫抑制作用により、重症ドライアイの他覚所見及び自覚症状を改善する乳化点眼剤。カチオン性製剤技術により組織移行性を高めた製剤。										
シクロスポリン	Vekacia (ベカシア)	春季カタル	自社	欧州						
免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオン性製剤技術により組織移行性を高めた製剤。										
ラタノプロスト	Catioprost (カチオプロスト)	緑内障・高眼圧症	自社	欧州						
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の、緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。										
デキサメタゾン パルミチン酸エステル	Cortiject (コルチジェクト)	糖尿病黄斑浮腫	自社	米国	(フェーズ1/2)					
抗炎症作用を有する硝子体内注射剤。										

※カチオプロスト、コルチジェクトの2品は、事業性について評価中。

■2013年度第1四半期発表時(2013年8月6日)からの変更点

開発コード	変更点
DE-089	2013年10月、発売(韓国)
DE-111	2013年9月、製造販売承認を取得(日本)
DE-114	2013年9月、製造販売承認を取得(日本)
DE-118	2013年10月、発売(日本)

(3) 設備投資、減価償却費および研究開発費の実績ならびに見込額

■設備投資

(単位:百万円)

	平成25年3月期		平成26年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
設備投資額	1,872	4,202	1,844	4,250

■減価償却費

(単位:百万円)

	平成25年3月期		平成26年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
総額	1,200	2,530	1,174	2,620
製造経費	580	1,211	582	1,300
販売管理費	276	533	289	640
研究開発費	344	785	302	680

(注)のれんおよび長期前払費用の償却費は除いています。

■研究開発費

(単位:百万円)

	平成25年3月期		平成26年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
研究開発費	7,942	16,719	8,078	18,200
対売上高比	14.0%	14.0%	11.7%	12.9%